opusdei.org

属人区長の書簡 (2009年6月)

6月の典礼における祭日をもとに、オプス・デイ属人区長は、日常生活においてもっと親密に神と付き合うよう招く。

2009/06/09

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

昨日は聖霊降臨の祭日でした。今年は5月の最後の日にあたりました。

最初の聖霊降臨の時と同じように、 私たちも慰め主の新たな降臨に与る ため、聖母が準備を助けてください ました。そして年間節が再び始まる 今、このときを家族生活や社会生活 から生ずる様々な関わりと何時間も の什事で織りなされている日常生活 を、今一度聖化するようにという招 きとして受け止めることができるで しょう。創立者の教えが繰り返され ます。外見上は毎日の仕事に何の変 化もありませんが、同時に新たな愛 を込めて果たすことによって、日々 変わるのです。

普段の生活こそが、恩恵に支えられ 促されて、キリストとますます深く 一致するために戦う本来の場です。 そうして、よりよい神の子になれた す。このことを的確に指摘された即 オセマリアのある説教を引用した要 と思います。「キリスト者が重要を のないと思われる日常の事柄を愛を 込めて果たすなら、それは神的な重 要性に満ちたものになります。だか ら私は、キリスト信者の召し出しと は毎日の散文を英雄詩にすることだ と幾度となく(martilleo槌で繰り返 し打つように)繰り返してきまし た。天と地は地平線で一つになるよ うに見えます。しかし実はそうでは ない。天と地が本当に一つとなるの は、日常生活を聖化しようとする皆 さんの心の中なのです。…」[i] 創立 者が〈martilleo(槌で繰り返し打つ ように)〉という言葉を発音された ときの強さが、未だに耳元でなり響 いているようです。なぜなら、創立 者は、神から与えられた精神を、言 葉と行いで私たちの心の奥深くに刻 み込まれる偉大な教育者であったか らです。

日々の務めを、神と人々への愛を もって果たすこと。ここに、神が社 会の真っ只中で生き、働くキリスト 信者を招かれた聖性の秘訣がありま す。このことが可能になったのは、 聖書に「私たちが愛するのは、神が まず私たちを愛して下さったからで す」[ii]とあるように、まず主が先に 動いてくださったからです。典礼を 通して人々に対する神の愛が非常に 多様な形で浮き彫りにされるこの6 月の最初に、このことを思い起こし たいと思います。私たちはこの点 を、救いの歴史の主な神秘、つまり ご託身、イエス・キリストのご受難 とご死去、ご復活と光栄あるご昇天 を祝う際にゆっくりと考察してきま した。これからの数週間に、「典礼 上、〈総合的〉とも言える三つの祝 日、すなわち三位一体、キリストの 聖体、イエスの聖心の祭日を祝いま す。 | 「iii] これらの日々は、神の子 であると自覚している者にとって は、人々に対する神の愛を特別に実 感させてくれるものであり、そうい う意味で、救いの全ての神秘を包括 しているものです。

7日の日曜日は三位一体の祭日で す。教会は、この大きなお祝い日に あたり、預言者を通して徐々に啓示 され、イエス・キリストにおいて全 面的に表明されることをお望みに なった、唯一の神の本性の内的な神 秘を考察するよう、教会は私たちに 勧めます。すでに旧約聖書におい て、シナイ山でモーセの前を通り過 ぎ、「憐れみ深く恵みに富み、忍耐 強く、慈しみとまことに満ちた神| [iv]としてご自身を表されました。 この言葉は、それ以前にモーセに知 らされていたヤーヴェという名前に 込められた豊かさを初めてはっきり と表明したものです[v]。同時に、こ の筆舌に尽くしがたい御名は神秘の ベールに覆われたままでした。新約 聖書において初めて、私たちは神の 内的な生命をよりはっきりと知るこ とができたのです。主に最も愛さ れ、最後の晩餐では主の胸もとに寄 りかかっていた使徒聖ヨハネは、聖 霊に促されて、最も深い意味で神を

「愛」という一言で要約しました。 Deus caritas est [vi]、神は愛です。 そして、この愛をはっきりと表すこ とをお望みになって御子をお送りに なったのです。「神は、その独り子 をお与えになったほどに、世を愛さ れた。」[vii]

ベネディクト十六世は、この〈愛〉 という名について次のように話され ました。「聖書の神は、自己のうち に閉じ籠もり、自己のみで満足して いるような単一体ではないと明確に 表されています。他者との交わりを 望む命であり、関わりに開かれてい る存在です。〈憐れみ深い〉〈慈し み深い〉〈まことに満ちた〉という 表現は、あらゆる欠陥、あらゆる不 足を満たしたいという望み、与え許 す望みを示し、永遠に続く固い絆を 結ぶことを望み、自身を捧げる生き 生きとした〈存在〉という関わりで あることを語っているのです。| [viii] 愛そのものであられる私たちの 神は、かけ離れた超越的な存在として、人間の心配事には無関心。には無関心。がれて、人存在とのではありません。が、ではこのではながあって、一致したです。「神でもしてがあるだけです。」であるである。」であられる聖霊です。」[ix]

ゆえ、聖ホセマリアは、神のそれぞ れのペルソナを知り、付き合うよう 努めることをキリスト者に勧めてお られたのです。「御父、御子、聖霊 を誉め称えることを学びなさい。三 位一体に対する特別な信心を持つよ うにしなさい。父なる神を信じ、子 なる神を信じ、聖霊なる神を信じ、 至聖なる三位一体を信じます。父な る神に希望し、子なる神に希望し、 聖霊なる神に希望し、至聖なる三位 一体に希望します。父なる神を愛 し、子なる神を愛し、聖霊なる神を 愛し、至聖なる三位一体を愛しま す。たとえ、いつも言葉で言い表さ ないまでも、内的に繰り返すこの信 心は、超自然的な鍛錬に欠かせない ことです。| [x]

私たちの神とこのような付き合いを 深めたいと思います。一日中どのよ うに神の現存を求めているでしょう か。たびたび神の子どもであること を考察しているでしょうか。私たち の長兄であり、模範であるイエス・ キリストに倣おうと切望しているで しょうか。私たちを聖化し、使徒職 の熱意を私たちの内に燃え立たせて くださるよう、慰め主に慎み深く嘆 願しているでしょうか。聖霊との友 情は深まっているでしょうか。

11日(ところによっては6月14日の 日曜日)のキリストの聖体の祭日 は、キリスト者のこの深い願望を改 めて燃え立たせてくれます。教皇は この日の典礼の様々な場面を分析 し、その深い意味合いを次のように 要約されています。「まず、私たち は〈主と共にいる〉ために主の祭壇 のもとに〈集まり〉ました。その 後、行列をします。すなわち、〈主 と共に歩む〉のです。最後に〈主の み前にひざまずき〉、主を礼拝しま す。この礼拝は、すでにミサ聖祭で 始まり、行列中も続きますが、最後 に聖体による祝福の際に、私たち皆 が、私たちのもとに降り、私たちに

命をお与えになる主のみ前にぬかずくとき、最高潮に達します。」[xi]

ベネディクト十六世は、キリストの 聖体の日だけではなく、私たちの全 生活において、私たちを強めてくれ るような内的な道のりを勧められま す。これからの日々、それに徹底し て従う覚悟を失わないようにしま しょう。この祭日が私たちにもたら してくれる恩恵を最大限に活用する ことを望み、心の底から聖体の人に なりたいと決意することです。毎日 ミサ聖祭に与ることが、霊的な力を 補充し、一日中、信頼に満ちた聖三 位一体との親密さをより一層保つよ う促すものとして役立たなければな りません。教会の聖櫃に現存される ご聖体を訪問することは、神と人々 への愛を生き生きと積極的なものに し、家族や職場の同僚、友だち、ま た色々な理由で関わり合う人たちに 対して、小さなことかも知れません が具体的な心遣いを示す、兄弟愛を

実行するよう助けてくれるでしょ う。創立者があらゆる力をミサ聖私 から汲み取っておられたことを入っておいます。 で寝れています。ならなかってはなかっなければなられたなかっったはまずれるように思いておいておいてもいいます。 でき、まずを捧げる飢えを感じてよいまでものでした。 できいを培っておられたのです。 ずっその思いを培っておられたのです。

エス・キリストの人性と共におられ る御父、御子、聖霊を誉め称えま す。神の一位のペルソナが認められ るところには、必然的に三位一体の 神が現存されるからです。それか ら、私の母であられる聖マリアに愛 を込めて話しかけます。一輪の花を 差し上げるように、そうします。ま た天使たちにも挨拶することにして います。彼らは、秘跡に現存される 主に臣下の礼を尽くし、愛を込めて 主を礼拝し、償いを捧げつつ、聖櫃 を見守り続けているからです。四六 時中そこに留まっている彼らに感謝 します。私には心でしかできないこ とだからです。いつも聖なるご聖体 のイエスに什え、寄り添っている聖 なる天使たちよ、ありがとう!| [xii]

これに何も加える必要はないでしょう。創立者のこの打ち明け話は、私 たち一人ひとりに、秘跡に在すイエ スと付き合うことを渇望させ、より 熱意を込めて付き合う望みを燃え立 たせてくれるはずです。

こうして準備をよく整えて三番目の 祭日であるイエスの聖心の日を迎え ることになります。これは神の愛の 偉大さを雄弁に物語る祝日です。聖 ホセマリアはこう述べています。

「イエスの聖心について今考えると いうことは、神の愛が確かなもので あること、また神は本当にご自分を お与え下さったことを明らかにする ことであります。」[xiii] 主は、私た ちが悲しみや困難に遭遇するとき、 主のうちに逃げ込んで、主のうちに 憩えるようにと、聖心を槍で刺し貫 かれるままにして、全面的な隠れ家 を備えてくださいました。これ以上 に神の愛を証しする事柄があり得る でしょうか。どうか私たちが、私た ち自身と、主が例外なく一人ひとり のためにいけにえとなられた偉大な 現実を知らないでいる多くの人たち

の罪によって主を傷つけたことを、 償いたいと望みますように。

更に、この日には、ベネディクト十 六世が、アルスの聖司祭の帰天150 周年を祝うにあたって教会全体はいた でかけられた〈司祭年〉が祭って がかれた〈司祭年〉が祭って がのいたるの聖ながののでいる。 をいように、〈およのでは、るよいと共でではないとができるがのに、 をいたとがではまれた。 がの信者ととができるように、 がのにまするの人たちを筆頭に、 の人々を励ますようの人々を励ますよう。

使徒聖ペトロと聖パウロの祭日である6月29日に、パウロ年が幕を閉じます。この一年間、この異邦人の使徒の生活と教えを黙想して、私たちは主をより深く愛することを学びました。この愛によって、真の自由はなマスコへの途上で、栄光のイエス・キリストを見た時、それを悟り

ました。この時から彼は、「愛への 責任に促されて、語り行動しま す。」[xiv] 愛ゆえの自由によって、 この上なく自由であることを感じた のです。教皇はこう説明されまし た。「アウグスティヌスは同じ精神 に基づいて、後に有名になった言葉 を述べました。『愛しなさい。そし てあなたが望むことを行いなさい』 (1ヨハネ7,7-8注解)。パウロがキ リストを愛したようにキリストを愛 する人は、真の意味で、望むことを 行うことができます。なぜなら、そ の人の愛はキリストのみ心と一致 し、それゆえ、神のみ心と一致して いるからです。| [xv]

今月祝う、他の祝日や記念日、すなわち、マリアの汚れなき御心、オプス・デイの最初の司祭叙階記念、聖ホセマリアの祝日などについて、ここで述べるつもりはありません。これらの日付一つひとつから、それぞれの色合いで、神に仕え、神のため

人々に仕えることに懸命となり、使 徒職を具体的に実行する熱意に燃え 立つための、新たな励ましを受け取 ることができるし、またそうすべき です。

私のすべての意向のために祈り続けてください。特に、インドネシアとルーマニア、そして韓国での属人区の仕事の開始のために祈ってください。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2009年6月1日

[i] 聖ホセマリア、1967年10月8日説 教「愛すべき天地」(『教会を愛す る』p.86)

[ii] 1ヨハネ4,19.

[iii] ベネディクト十六世、2008年5 月22日、キリストの聖体の祭日の説 教

[iv] 出エジプト記34,6.

[v] 出エジプト記3,14参照

[vi] 1ヨハネ4,8.16.

[vii] ヨハネ 3,16.

[viii] ベネディクト十六世、2008年5 月18日、三位一体の祭日の説教

[ix] 同上

[x] 聖ホセマリア、1961年12月3日、 説教のメモ

[xi] ベネディクト十六世、2008年5 月22日、キリストの聖体の祭日の説 教

[xii] 聖ホセマリア、1972年1月6日、 団欒のメモ <u>[xiii]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』 164

[xiv] ベネディクト十六世、2008年6 月28日、パウロ年開幕の説教

[xv] 同上

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2009nian-6yue/ (2025/12/11)